

基本目標1 ともに支え合う「共生のまち やわた」

個人の生活様式や価値観の多様化が進むなかで、心ふれあう住みよい地域社会を実現するためには、市民一人ひとりが、互いに人権を尊重し、理解しあう姿勢を持ちながら、共に暮らすまちの創生が必要です。

このため、「共生して暮らすまち やわた」の創生を基本目標1とし、**コミュニティ活動の推進**、継続して**地域活動・地域福祉**を支える担い手の確保・育成、多様な生活様式に合わせた制度の設計、すべての人にとって暮らしやすい住環境の整備など、様々な側面において共生を念頭に置いて進めます。

主要課題

核家族化、高齢化、働き方の多様化、障がいのあるなしに拘らず、様々な生き方の人が暮らす中で、互いに支え合い共生できる地域づくり。

具体的なテーマ

- 単身者、高齢者、子育てする親などの孤立化の防止
- 障がい者の社会参画、地域における共生
- 年齢、国籍、多様な働き方、家族のあり方など、様々な背景のもとで暮らす人が共生する地域
- 継続して**地域活動・地域福祉**を支える担い手の確保・育成

市民の意見

- ・ 人権尊重に関わる具体的な取組が分からない、知らない。
- ・ 地域活動への参加は総じて低い（自治会 33%）。参加・協力意向は 49%。
- ・ 自治会活動でコミュニケーションはとれても、助け合えるかは疑問。
- ・ 自治会活動は、「つかず、離れず」程度の参加がよい。
- ・ 地域活動に参加してみたいが、きっかけがない。
- ・ イベント等の参加者が固定化している。
- ・ 仕事と生活の調和がとれていない。
- ・ 男性の考え方が変わらない、職場でも男性優位と思う。
- ・ 八幡市は外国人が多いが、それが多文化理解につながっているように思われない。
- ・ 生涯学習は時間帯や場所、募集人数によっても参加できないことが多い。
- ・ 図書館で勉強しようと思っても、自習スペースが少なく、満席のことが多い。
- ・ 生活保護制度が適切に運用されているのか疑問。

第4次総合計画の総括

- ・ 「八幡市人権のまちづくり推進計画」を平成 25 年に改訂し、人権教育等を積極的に推進。
- ・ 市民協働活動センターの設置により協働に向けた環境は整備されたが、担い手組織や人材育成が課題。
- ・ 女性の社会参画は進捗しつつあるが、家事・育児などの分担はまだまだ女性に偏る。
- ・ 「仕事と家庭・地域生活のバランスをとりたい」という意識は高まっているが、現実としては、「仕事優先」の割合が高い。
- ・ 絆ネット構築支援事業（平成 26 年度～）が、自助と公助をつなぐ共助の拡大において重要な役割を果たし、地域の団体をつなぐ端緒に。
- ・ 福祉ボランティアは担い手が高齢化・固定化。担い手の若返り、拡大が喫緊の課題。
- ・ 精神障害者保健福祉手帳交付数、身体障害者手帳交付数は高齢者（65 歳以上）が増加傾向。
- ・ 発達障がい等による療育の必要な就学前児童が増加するなか、児童発達支援事業の体制整備を図る。
- ・ 生活保護については、保護世帯、保護人員、保護率とも増加傾向にあり、ふれあい福祉センター相談、民生委員相談とも増加傾向。
- ・ 生活保護受給者の就労支援は、ハローワークと連携。今後も相談機能の充実と就労支援に向けた取組の継続が必要。
- ・ 公民館は施設の改修もあって利用数が増加している。
- ・ 図書館は、貸出冊数が減少傾向。ウェブサービスによる貸出予約は増加しており、検索の利便性は向上している。

基本目標2 子どもが輝く「未来のまち やわた」

子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、未来を担う子どもの成長を地域全体で支え、希望をもち、安心して子どもを産み、育てられる環境の整備が必要です。

このため、子どもが輝く「未来のまち やわた」を基本目標の2とし、子どもたちが社会の変化に対応できる力と豊かな人間性を身につけることができるよう、学校教育の充実、教育・保育施設と家庭や地域の連携の強化、楽しい魅力ある学校づくりを進めるとともに、子どもの貧困問題や、子育てと仕事の両立等、子育て世帯の総合的な支援を進めます。

主要課題

少子化が進む中で、未来を担う子どもの成長を地域全体で支え、子どもも大人も幸せに暮らせる地域づくり。

具体的なテーマ

- 学力の向上等、次代を生きる力の育成
- 妊娠・出産・子育てまで一貫したサポートの充実
- 仕事、子育て、地域活動のバランスの取れた暮らしが可能な地域づくり
- 発達障がい児の早期療育の充実
- 子どもの貧困問題への対応

市民の意見

- ・ 学力向上が必要である
- ・ 学校教育を充実してほしい
- ・ 私立高校の通学に要する費用を支援してほしい。
- ・ 学童保育の運営を改善してほしい。
- ・ 子どもをどう、まちぐるみで育てていくのかの視点が見えない。
- ・ 赤ちゃんより少し上の年齢の子どもにも目を向けてほしい。

第4次総合計画の総括

- ・ **就学前児童の保護者の2割は子育てに不安や負担を感じている。また7割が「子育てが楽しい」と感じている。(平成25年 子育て支援に関するアンケート結果)**
- ・ 小中学校に外国人講師の配置を行い、生きた英語に触れるとともに、授業だけでなく休み時間や部活動での交流も積極的に実施。小学校における英語の教科化を踏まえ、外国人講師を十分活用できる体制整備が課題。
- ・ 「八幡市就学前施設のあり方について」の提言書にもとづく施策展開が必要。
- ・ 児童の数は減少傾向にあるが、共働き世帯の増加などから、放課後児童健全育成事業の需要は増加傾向。平成27年、子ども・子育て支援センター（すくすくの杜）内に施設を開設するなど増設を行うが、定員を超える施設がある。
- ・ ひとり親家庭への支援制度（相談支援体制、母子生活支援施設への入所による生活支援、自立支援教育訓練給付金、高等職業訓練促進給付金）はほぼ整備。給付金制度など、多忙なひとり親世帯への情報伝達が課題。
- ・ 市民から学校が信頼され、子どもたちが安心して通うことのできる、楽しく魅力ある学校づくりのため、あらゆる人が安心して快適に生活できる社会の実現をめざした「ユニバーサルデザイン」を基本理念として、「かたち（体制・仕組）」と「きもち（発想・意識）」を変え、子どもたちの夢と志を育む教育の実現をめざす。
- ・ 学力調査の目標については未達成。学習指導員等の確保が十分にできていないことが課題。

基本目標3 誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」

生涯にわたって働き、学び、体を動かし、いきいきと生活することを通じて、「健康」で「幸せ」な人生を送ることは、地域全体の活力にもつながります。

このため、誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」を基本目標の3とし、保健・医療制度の適切な運用を図るほか、生涯学習の充実、運動や食の改善、そして地域のコミュニティを活かした健康づくりを進めるとともに、安全な生活道路、歩きたくなるまちづくり、移動手段の確保、快適な公園づくりなどの環境整備を進めます。

主要課題

高齢化が進む中で、すべての市民の健康意識を向上させ、生涯にわたって学び、体を動かし、「健康」で「幸せ」に暮らすことのできる「健幸」地域づくり。

具体的なテーマ

- すべての市民が生涯にわたり自然と「健幸づくり」を続けられるまちづくり
- すべての市民の健康意識の向上と増え続ける社会保障費用の抑制
- 東京オリンピック・パラリンピックを通じた市民のスポーツの振興

市民の意見

- ・ スポーツ施設が遠くて利用しにくい。
- ・ 30代～50代が参加しやすいスポーツ教室を開催してほしい。
- ・ 高齢者の介護予防、引きこもりの防止対策が必要。
- ・ 受診方法の周知や身近での検診機会の確保が必要。
- ・ 元気な高齢者が活躍できる機会を増やしてほしい。
- ・ 高齢者が年金以外の収入を得られる方法が必要。
- ・ 安心して歩ける歩道を整備してほしい。
- ・ 側溝に蓋をしてほしい
- ・ 石清水八幡宮へのウォーキングコースを整備してほしい。
- ・ 身近にウォーキングできる場所がない。
- ・ 検診の受け方が分からない。
- ・ 検診会場が市役所周辺しかない。
- ・ バス路線を充実してほしい。(美濃山地区・市役所周辺地区間等)
- ・ コミュニティバスの路線の充実や運行本数の増加をしてほしい。
- ・ 大きな病院が少ない。
- ・ 救急医療を充実してほしい。
- ・ 国民健康保険の保険料が高い。
- ・ 福祉施設の整備が必要である。

第4次総合計画の総括

- ・ 健康フェスタや健康マイレージ事業等により健康管理意識を啓発。
- ・ 食に対する意識の高揚を図るため、食生活改善推進員を育成。
- ・ 要介護状態になる可能性の高い高齢者を抽出し、介護予防教室や訪問指導等の二次予防事業の参加につなげた。
- ・ 健康づくりへの無関心層に対する健康意識の啓発や有効な健康施策が必要となっている。
- ・ がん検診の無料化、一括申込制度の導入により受診率が向上。
- ・ 高齢者の就業機会の確保等のためシルバー人材センターの運営を支援。
- ・ 側溝に蓋を掛けるなど、歩行者が安全に利用できる生活道路を整備。
- ・ 近隣公園等6か所に公園利用者が利用できる健康器具を設置。
- ・ コミュニティバスの1時間1便の定時制の確保により、利用者が増加。
- ・ コミュニティバス、路線バスとも低床化した車両を導入。
- ・ バリアフリーの観点からバス停に上屋、ベンチを設置。
- ・ 休日応急診療所の運営の効率化を進めた。
- ・ ジェネリック医薬品差額通知等により、医療費の抑制に取り組んでいる。
- ・ 介護保険事業計画に基づき、介護老人保健施設等の施設整備や地域密着型サービス事業所の指定等サービス基盤を充実。
- ・ 新サービスとして定期巡回随時対応型訪問介護看護やあんしんサポートハウスを整備。
- ・ 身近な相談窓口である地域包括支援センターを増設。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅医療・介護連携の推進や認知症施策の推進に向けた取組を実施。

基本目標4 自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」

豊かな自然・歴史・文化資源を持つ八幡市にとって、観光客の増加を図り、「観光」業を中心とした地域産業の活性化に結びつけることが重要です。また、地域の自然・歴史・文化的資源が多くの人に愛され、住む人も訪れる人も幸せになる地域づくりを進めていくことが必要です。

そのため、自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」を基本目標の4とし、自然・歴史・文化資源の磨き上げ、地域魅力の発信、文化芸術の振興、周遊型観光連携、観光関連商業の振興等、市の魅力向上に向けた取組を推進し、また、市民の愛着醸成を図り、住みたくなるまち・暮らし続けたくなるまちを実現していきます。さらに、市街地や道路等の整備においては、歴史・文化的な景観の保護と向上が図られるよう進めていきます。

主要課題

地域の自然・歴史・文化的資源が多くの人に愛され、住む人も訪れる人も幸せになる地域づくり。

具体的なテーマ

- 国宝石清水八幡宮等、地域の自然・歴史・文化的資源を活用した魅力の向上
- 地域の愛着と誇りを高める都市イメージの向上
- 茶文化をはじめとする文化の創生
- 来訪者増加に向けた交通機関や周辺地域との連携

市民の意見

- ・ 公園の管理が不十分である。
- ・ 河川や堤防がきれいでない。
- ・ 散策して楽しい場所がある(石清水八幡宮、背割堤等)。
- ・ 静かで穏やかに暮らせる環境がよい。
- ・ 自然が感じられる。緑や景観を残してほしい。野菜の無人販売がよい。
- ・ 八幡市文化センターで様々な文化的な催しが行われている。
- ・ コミュニティバスと路線バスのルートが重なっている。路線バスがないエリアを運行してほしい。
- ・ 公共交通が不便、車に乗れない人でも周りに行きやすいようにしてほしい。とにかく少し不便。
- ・ 京都や大阪への交通アクセスが便利である。
- ・ 自動車処理業の集積地付近の景観が良くない。
- ・ 国道沿いにお店がたくさんある。
- ・ 石清水八幡宮が八幡市にあることが知られていない。初詣と桜のシーズン以外は観光客が少ない。
- ・ 石清水八幡宮が国宝になったにも関わらず、正月以外他地域の国宝などと比べて観光客なども訪れていないように思える。

第4次総合計画の総括

- ・ 市民文化祭の開催により、市民の文化活動への参加機会の確保と文化活動を通じた交流を図ることができた。
- ・ 史跡となった石清水八幡宮境内、名勝となった松花堂及び書院庭園など市内文化財の更なる保存と活用が課題。
- ・ 八幡市文化センター及び松花堂庭園・美術館における各種事業の開催を通じて、優れた芸術に接する機会と交流の場の設定が課題。
- ・ 文化協会と連携し、子どもを対象とした文化教室等を開催。
- ・ 今後進められる八幡市駅前や橋本駅周辺の再整備や観光まちづくりに関連する各種整備事業等、八幡市歴史街道計画整備検討委員会での検討が必要となる。
- ・ 淀川三川合流地域づくり推進協議会に参画、交流事業及び三川合流域サービスセンター実現に向け協議・調整が必要。
- ・ 男山散策路ウォーキングマップで案内、「八幡まるごと観光イラストマップ」や広域観光PR紙への散策路を掲載。
- ・ 石清水八幡宮の国史跡指定を受け「八幡市観光マップ 史跡めぐり」を作成(H24年度)。石清水八幡宮の国宝指定PR(懸垂幕等 平成27年度)等を実施。
- ・ 商工会に八幡ブランド商品普及事業を助成し、京・やわたブランドとして黒カレー、筒カレー、クロッカ等を開発。
- ・ 八幡市駅前、松花堂、四季彩館で乗降できるレンタサイクルを継続的に実施。
- ・ やわた観光ガイド協会が常駐する駅前観光情報ハウス運営を支援。
- ・ 案内看板・サインの整備は多言語化対応をどう進めるのか、統一基準を設けるか等、検討が必要。
- ・ 平成28年度の八幡市「お茶の京都」交流拠点づくり推進協議会における「観光まちづくり構想」からの展開が課題。

基本目標5 しなやかに発展する「活力のまち やわた」

新しい高速道路網の整備に伴って期待される交流人口の増加は、少子高齢・人口減少社会においても、豊かな田園風景を維持・保全しながら、まちの活力を支える産業振興を充実させる絶好の機会です。

そのため、しなやかに発展する「活力のまち やわた」を基本目標の5とし、産業が集積する基盤づくりや企業の誘致、関係機関と連携した創業支援等を進めます。また、農業に関心をもつ機会の提供等を通して担い手の確保を図ります。

主要課題

新しい交通基盤の整備が進む中であって、**豊かな田園風景**を保全しながら、産業を集積させる活力ある地域づくり。

具体的なテーマ

- 新名神高速道路全線開通を見据えた土地利用と産業集積の推進
- 橋本駅周辺の整備による土地利用の検討
- 認定農業者・新規就農者の発掘、認定への誘導
- 農業・農村の有する多面的機能を維持することによる**豊かな田園風景**の保全
- 創業支援についてのワンストップ相談窓口の設置を通じた創業促進

市民の意見

- ・ 地産地消を進めてほしい
- ・ 商店街を活性化してほしい。商業の立地が偏っている
- ・ 市内に商業の核となるところがない
- ・ どこにでもある大型店ばかりで魅力あるお店がない
- ・ コミュニティバスの本数を増やしてほしい。
- ・ 利用者が多い経路でコミュニティバスを運行してほしい。
- ・ 美濃山地区と市役所を結ぶ路線がなくて不便
- ・ 男山と市役所を結ぶバスの本数が少ない
- ・ 八幡市駅からの路線を充実して欲しい
- ・ 京阪電車の急行の本数を増やして欲しい
- ・ 駅周辺の活性化を進めてほしい
- ・ 橋本駅周辺の整備が必要である
- ・ 橋本駅周辺の商業を増やしてほしい
- ・ 八幡市駅前整備が必要である
- ・ 山手幹線の交通渋滞を解消して欲しい
- ・ 農業の将来像が見えない
- ・ 若い農業の担い手が減っている
- ・ 八幡の名産品を知らない
- ・ 地場の農産物の販売が少ない
- ・ 企業が増えないので八幡で仕事に就きにくい
- ・ 企業が増えれば住宅地に影響がある。大型車の出入りが多く危険である。

第4次総合計画の総括

- ・ 新名神高速道路（城陽～八幡間）が平成28年度内の供用見込。（八幡～高槻間）を平成35年度供用目標で事業推進中。
- ・ 都市計画道路内里高野道線、府道八幡インター線が、平成28年度内の供用予定。
- ・ 八幡市駅の放生川踏切拡幅に向け、京阪電気鉄道と協議中。事業費が莫大で、事業負担、時期等協議継続中。
- ・ 「コミュニティバスやわた」は、双方向1時間1本の定時制を確保し、高齢者にも利用しやすく利用者増加。
- ・ 農家数の減少の中、認定農業者・新規就農者の発掘、認定への誘導。5年前と比べ、認定農業者数1人増
- ・ 認定農業者のうち、2人が法人化
- ・ 国の制度を活用し、新規就農者2人を確保。
- ・ 「八幡市地産地消推進計画」により、農産物直売所を四季彩館に設置し、地場産農産物の販売促進の体制を強化。
- ・ 工業団地の区画整理が終了しており、新たに誘致できる土地がない状況。
- ・ 八幡JCT・IC周辺の土地利用を想定した区域区分と周辺の地域地区の見直しを実施（平成28年5月）。

基本目標6 安心・安全な「持続可能なまち やわた」

災害への対応、人口の高齢化といった、社会の変化に柔軟に対応し、ソフト・ハード両面で安心・安全が守られる、持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。

そのため、安心・安全な「持続可能なまち やわた」を基本目標の6とし、**インフラ施設の更新・耐震化・長寿命化**や、公共施設の有効活用や集約の検討も含めた適正な管理、「自助」「共助」「公助」それぞれが有効に機能する防災体制の確立など、ハード・ソフト両面で市民の安心・安全の取り組みを進めます。さらに、防災拠点として市役所機能の強化と体制づくりを進めていきます。

また、環境にやさしく、安全で清潔な生活環境と、豊かな自然を守るため、廃棄物の発生抑制（リデュース）、資源の再使用（リユース）、資源の再生利用（リサイクル）の促進により、環境への負荷の少ない循環型社会が形成されるように進めます。

主要課題

社会の変化に柔軟に対応し、ソフト・ハード両面で安心・安全が守られる地域づくり。

具体的なテーマ

- 老朽化する都市基盤の更新と災害に強いまちづくり
- 自助・共助・公助が機能する地域づくり
- 公共施設の総合的な管理
- 持続的なまちを支える中長期的な行財政運営

市民の意見

- ・ ごみの分別ルールが守られていない。
- ・ ごみの分別方法がわかりにくい
- ・ 大雨で浸水しないようにしてほしい
- ・ 犯罪や詐欺・トラブルが発生している
- ・ 夜間にバイクの暴走行為が見られる。
- ・ 行政の成果が分からない
- ・ 行政についての情報提供を充実してほしい。
- ・ 住民の意見を行政に活かしてほしい。
- ・ 職員数が多すぎる。
- ・ 職員の育成が必要である。
- ・ 市職員の対応を改善してほしい。
- ・ 財政が健全ではないように思われる。
- ・ 行政の無駄の排除を徹底してほしい。

第4次総合計画の総括

- ・ プラスチック製容器包装の分別回収の**実施**により、ごみ排出量が減少。
- ・ 市役所本庁が耐震化されておらず、浸水対策も含め建替等を検討中。
- ・ 防犯啓発や青色防犯パトロール、防犯カメラの設置などにより、**刑法犯**認知件数は減少。
- ・ 高齢者被害防止対策に加えて、若い世代への消費者教育が今後必要。
- ・ 道路や橋梁の計画的な維持補修を実施しているが、今後ますます老朽化により道路補修の必要性が多くなり、適切な維持管理が困難。
- ・ 「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、平成27年度に本市人口の将来展望と今後5カ年の総合戦略を策定。
- ・ 金曜夜間窓口や市内4か所に設置した地域窓口で各種証明書を発行。
- ・ 公共施設管理の適正化、未収金対策の推進、多様な担い手による行政サービスの提供等、サービス水準を維持したコスト削減を実施。
- ・ 中期財政見通しの作成に着手しており、財政状況の見える化を促進し、効果的な行財政改革へつなげていくことが必要。
- ・ 上水道、下水道ともに老朽化対策のため、今後さらなる耐震化、長寿命化対策が必要。
- ・ 上下水道事業について、給水人口の減少、節水機器の普及等により給水収益の減少が予想されるため、財政の健全化対策が必要。
- ・ 自主防災組織に対する研修や資機材の支援を実施。
- ・ 市民自らの「自助」「共助」につながるように、ハザードマップの周知・活用による広報啓発が必要。
- ・ 出前講座や防災講演会の継続による防災意識の向上が必要。